

平成 26 年度 奄美・琉球世界自然遺産候補地科学委員会
第 1 回琉球ワーキンググループ
議事概要（質問、助言及び要請事項等）

- < 日 時 > 平成 26 年 12 月 11 日（木） 13：30～16：00
- < 場 所 > サンパレス球陽館 2 階 パレスコート
- < 出席者 > 土屋座長、尾崎委員、佐々木委員、芝委員、戸田委員、花井委員、横田委員、
米田委員
（欠席：伊澤委員、久保田委員。事務局関係者は省略）
- < 議 事 > 1．奄美・琉球世界自然遺産候補地科学委員会での検討経緯等について
2．奄美・琉球世界自然遺産管理計画構成案について
3．沖縄島北部・西表島の自然環境の保全上の課題と取組について
4．その他

< 概 要 >

議題 1．奄美・琉球世界自然遺産候補地科学委員会での検討経緯等について

- ・ 奄美・琉球世界自然遺産候補地科学委員会における検討経緯や、今後の検討体制について、事務局より説明を行った。

議題 2．奄美・琉球世界自然遺産管理計画構成案について

- ・ 既存の世界遺産地域における管理計画の概要を紹介した上で、奄美・琉球における管理計画の目次及び構成案について、事務局より説明を行った。

委員質問、助言及び要請事項等

- ・ 管理の方策には 4 島共通のものもある。特に共通に分布する外来種の対策については全体として取り組むべき方策を示したほうが理解しやすいのではないか。特にノネコ対策については他地域においても本質的には同じ方策で取組が進められるのではないか。
- ・ 推薦地はやんばる 3 村とのことだが、管理計画の対象範囲はコア、バッファー、周辺地域に分かれ、周辺地域も含めて考える場合は、3 村に限るのではなく、関係する地域が管理にも加わるように設定すべきではないか。

管理計画の対象範囲としての周辺地域については遺産の核心をサポートする地域であると考えており、推薦書や管理計画にも記載することになると考えている。また、地域連絡会議においても、例えばやんばる地域であれば 3 村をサポートする周辺地域が参加してもおかしくはないと考えている。

- やんばる 3 村には東村の米軍の演習地も含まれており、林野庁が基地返還後の利用に関するゾーニングを検討しているが、管理計画の対象範囲として議論するのか。

3 村には米軍の演習地も含まれるが、世界遺産の推薦地は国立公園の指定等の保護担保措置が必要なので、米軍の演習地は対象範囲ではない。返還されれば遺産区域として追加になる可能性はある。
- 管理計画を検討するにあたっては作業指針のみならず、2012 年の京都ビジョンなどの最新の情報を踏まえる必要がある。
- やんばる北部地域の沿岸部の改変の状況が大きいので、海岸部の保全についても議論する必要がある。

海岸部の保全については、特に東側の海岸について国立公園の拡張のために地元と調整しているところである。ただし、世界遺産としての価値は陸域が主体なので、推薦地となるかどうかはわからない。推薦地にならなかったとしても国立公園として保全していきたい。
- 今回世界遺産として推薦するにあたって、クライテリアとして生態系、生物多様性について、どのように管理していくかが大きなポイントである。意見があれば聞かせてほしい。

管理の基本方針に、クライテリアである固有種・希少種を守るための方針を「(1) 固有種・希少種の生息地・生育地の保全」に記述し、「(3) 生息・生育地の維持・改善及び生態系の機能強化のための計画的・能動的な自然再生の推進」の項目に、劣化している場所の改善・再生を積極的に図るための方針を記載した上で、その基本方針に沿って各島における具体的方策について記述していきたいと考えている。
- 小さな島なので、人が利用する場所と遺産地域のコアが近接しており、コアを守るための方策について十分な議論ができていない。例えば多くの人々が登山する与那覇岳をコアにした場合にどのようにして守っていくのか考えを聞かせてほしい。

まだ提示できる考えはないが、世界遺産地域に登録されると利用者が増えることが想定される。例えば小笠原では入島数制限をしている島があるが、どのような方法が取り得るかについては地元と調整をしながら考えていきたい。

議題 3 . 沖縄島北部・西表島の自然環境の保全上の課題と取組について

- 沖縄島北部・西表島の遺産価値の保全上の課題と現在行っている取組等について、事務局より資料 3-1～資料 3-2 に基づいて説明を行った。

委員質問、助言及び要請事項等

両地域について

- 侵略的外来種の対策が急務である。また、近縁種の持ち込みによる遺伝子汚染の問題がある。固有種と近縁種の交雑による遺伝的汚染の問題については基本方針に盛り込むくらいの重要な問題として位置付けて、まずは現状を把握すると共に、今後起こりうる問題として対策を検討する必要がある。
- 自然環境の保全上の課題に対する取組について、地域との協働での取組を提示し、それらの取組が実行されるような仕組みを作ってほしい。
- 今回提示された地域の課題についての解決策や、個別の検討会を立ち上げる必要性についての議論が必要ではないか。
- 真に効果的なモニタリングを行うためにはモニタリング方法の開発から行わなければならない。また、モニタリングに関しては地域の協力も必要なので、そのための仕組み作りも重要である。また、モニタリング手法や保全手法の研究など、基礎的な研究に関する取組も必要である。
- これまでの取組に行政の取組だけでなく、NPO や研究機関などの取組を追加すべきである。

沖縄島北部について

- 与那覇岳の登山道でトレイルランニングの大会が行われる予定であるが、シリケンイモリやアリサントマツリスゲなどの希少動植物が踏みつけられる恐れがある。希少種を保全していくためにも、地域の理解を得ていく必要である。
- 与那覇岳天然保護区域の近くの国有林の分収造林が伐採適齢期であるが、登山道のすぐ脇にあるので伐採をしなくて済むような対策が必要ではないか。
- ツルヒヨドリという外来植物が沖縄市や恩納村や北谷町にしか入っていなかったが、今は名護市や大宜見村の田嘉里川にも入っており、早く対策を取らないと 5 年後には北部一帯に侵入することが懸念される。
- 沖縄本島は西表島に比べて観光ポテンシャルが非常に高く、世界遺産に登録後の入り込み数の増加による環境影響の深刻化が予想されるため、事前の対策が必要である。
- やんばるは土地所有が非常に複雑であるため、包括的に管理する方法を検討すべきで

はないか。また、やんばるの人は山はみんなのものであるという共有林の意識が高いため、現状の管理体制や所有形態を把握しながら慎重に方策を考えていかないと空疎な議論になってしまう可能性がある。

西表島について

- アメリカハマグルマが非常に深刻な状況になっている。干立の天然保護区域や古見岳の登山道、白浜の海岸、内離島のニッパヤシの群落のすぐ近くにまで侵入して。早く対策を取らないと手遅れになってしまう。
外来生物調査駆除事業を昨年から実施しており、今後5カ年で関係者を集めて外来種の優先順位と対策方法を決める予定。アメリカハマグルマやイノブタの問題を検討する予定である。
- 干立の天然保護地域で土地改良事業が計画されており、実施されると、西表固有の新種になると考えられるミモチシダの群落がほぼ消失してしまう。自然湿地になっている所を畑にすることでゲンゴロウや魚などの水棲動物に大きな影響が及ぶ。さらにアメリカハマグルマの侵入も懸念される。

(4) その他

- 事務局より、本会議の結果を年度内に開催予定の第2回科学委員会で報告すること、及び次回のワーキンググループは次年度以降に開催予定であることを説明した。

以上